

2021年1月31日 聖餐式説教

教会の暦には祝日というのがあります。一番代表的なのが主イエスの降誕日で、その他主イエスのお弟子さんや使徒達のさまざまな記念が定められています。以前私たちが用いておりました文語の祈祷書の時は、この祝日が日曜日にあたった時は祝日を優先することになっておりましたので、私たちも祝日に比較的良好に馴染む機会がありましたけれども、現在の口語の暦では、祝日が日曜日に当たった場合は主日を優先し、祝日は翌日の月曜日に移動することになりましたので、祝日が馴染みにくい存在になってしまったのは残念なことです。しかし、主イエスご自身に関わることや重要な出来事に関しては主日に優先して守ることになっております。明後日に記念する被献日もその一つで、祝日の中でも重要な日と位置付けられているのです。またこの日には、婦人会の働きのため祈る習慣もあるのは、皆様もよくご存知の通りです。

聖書によれば、主イエスは誕生後ユダヤの習慣に従って様々な行事を経験されました。すなわち誕生後八日目に割礼をお受けになると共に「イエス」との名前をつけられました。そして四〇日目すなわち、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親は主イエスを主なる神に献げるため、エルサレムに連れて行ったのでした。それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからであるからでありました。これが被献日です。主イエスはこのように「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」存在でありましたが、単にそれだけでなく、受胎告知の際からマリヤがすべてを心におさめていたような、主なる神の御心がありましたので、主なる神にささげられるのはさらに大きな意味を持っていたと言えます。

ここに登場しますシメオンは、主イエスに出会った直後大きな喜びで満たされ、主なる神を賛美しました。この賛美をよく見ますと、何とこれはシメオンの辞世の賛美とも言うべき内容になっています。

「主よ、今こそあなたは、お言葉どおりこの僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目でああなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです」。

シメオンはこの日をずっと待っていたのです。自分の命があるのは、救い主

の誕生の到来を待ち続けるためであると思っていたシメオンは、今こそ全てが成就して今日まで命が与えられたことを感謝しつつ、辞世とも言うべき賛美をしたのでした。ここにすべてを主なる神に委ねた信仰の姿を見ることが出来ましょう。

このシメオンの賛美は、すべてを主に委ねる信仰が簡潔にまとめられており、また大変美しいものであることから、毎日の夕の礼拝において、第二日課に引き続いて用いられることになっております。

ヨセフとマリヤは、またしても主なる神の偉大な業に触れ、驚くことになるのです。しかしシメオンはさらに大きな主なる神のご計画について話します。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。・・あなた自身も剣で心を刺し貫かれます・・多くの人の心にある思いがあらわにされるためです」。主イエスの苦難に満ちた、最後に待っていたのは十字架であった、その伝道生涯をシメオンは示したのでした。加えて、やはりこの時を待っていたアンナもやってきて、主イエスの登場を祝ったのでした。

被献日はこのように、誕生後わずか四〇日であった主イエスに、その伝道生涯が初めて示され、大きな喜びがこの地上に現されたのを記念する日です。主イエスはたくましく成長を続けられますが、それはまた世界中の人々の罪を贖うという救い主メシアとしての成長であったことも共に覚えておきたいものです。